

共立介護福祉センターいさわ

いさわ新聞

発行日：2025年8月25日

発行元：共立介護福祉センターいさわ

所在地：笛吹市石和町広瀬781

お問合せ先：055-261-1210（代）

2025年 8月号

まいほーむいさわ 夏祭り

8/20(水)、21(木)で夏祭りを行いました。魚釣りの他、くじ引きと的当てもありました。くじ引きと的当てにはお菓子と靴下の景品もあり、皆さん楽しんでくださって準備をした甲斐がありました。次回は敬老会です。(神宮司)



いさわセンター全職員集会 基本ケアを学ぶ

いさわセンターでは7月25日(金)に基本ケアの学習会を行いました。座る姿勢・移乗・臥床時の姿勢などの起居動作をセラピスト雨宮職員の力を借りて学びました。基本ケアとは「私たちの目指す介護、絶対に譲れない介護の考え方」を言語化して全職員で同じ目標に向かうためのものです。やまなし勤労者福祉会の基本ケアは7項目あります。①座ることは生活動作の基本②食べたい気持ちを支える③トイレで排泄する④自分で入浴することを支える⑤チームで生きる力を支える⑥安心して住み続けられるまちづくり⑦その人らしい最期を支える、です。職員を利用者さんに見立て、ケアの方法を実技を交えてひとつひとつ確かめていきました。職員からは多くの質問が寄せられ、ディスカッションを通して、お互いの技量を高めあいました。今後の利用者さんへのケアにいかしていきたいです。(平澤)



やまなし勤労者福祉会 平和委員会 原水爆禁止世界大会 ライブビューイング



原水爆禁止世界大会とは1954年、太平洋ビキニ環礁でアメリカが実施した水爆実験で、静岡県焼津市のマグロ漁船「第五福竜丸」が被ばくした事件を機に反核世論が高まり、1955年8月6日、広島で第1回大会が開かれました。

やまなし勤労者福祉会の平和委員会では委員が集まり、2025年度原水爆禁止世界大会を8月6日(水)にいさわセンターにてZOOM視聴しました。被爆80年が経過し、大会で特に印象に残ったのは、1歳5カ月で被爆した田中さんの話でした。田中さんのお母さんは、戦後も10年ひっそりと生きてきたそうです。田中さん自身も差別を受け被爆者ということを隠して生きてきたそうです。

被爆から80年がたち、被爆された方々も年々人数が減っています。被爆の歴史やその後の人々の苦しみを知ることの大切さと、二度と繰り返すことのないよう次の世代に伝えていかなければならないと強く感じました。(長田)



視聴した職員の感想 【抜粋】

- ・日本は唯一の被爆国として被爆者の痛み・願いを世界に発信していかなければならない。被爆者の証言は過去をしのぶだけでなく未来をよりよく築くための勇気と力となっている。
- ・戦後80年、核兵器は今なお12000発以上存在している。核兵器使用に正当性、責任ある使用はない。軍拡の抑止にはならない、安全の保障に程遠い、人類生存を脅かす脅威である。命を守る仕組みに力を注ぐべきである。



第3回ほほえみカフェ(オレンジカフェ)のご案内

次回開催
予定日時

9月20日(土)
14:00~

TEL: 055-261-1210 担当者: 井上・加藤

次回のほほえみカフェは講師の大貫先生をお招きし、「カードケース」を作成します。また訪問看護ステーションほほえみ所長の加藤【認知症看護認定看護師】による「認知症学習会」も予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

送迎(無料)も行います。ご希望の方は上記の連絡先まで。

